

事項	だいずのべと病のシモキサニル・ファモキサドン水和剤（ホライズンドライフロアブル）による防除法		
ねらい	だいずのべと病に対して、シモキサニル・ファモキサドン水和剤（ホライズンドライフロアブル）の茎葉散布による防除を検討した結果、効果が認められたので参考に供する。		
指導 参考 内容	<p>1 シモキサニル・ファモキサドン水和剤の使用法 (1) 発病初期から7～10日間隔くらいで、2,500倍液を10a当たり180ℓ、3回以内散布する。ただし、使用時期は収穫7日前までである。</p> <p>2 シモキサニル・ファモキサドン水和剤の使用基準等 (1) 薬剤名等 ア 一般名：シモキサニル・ファモキサドン水和剤 イ 商品名：ホライズンドライフロアブル ウ 有効成分：シモキサニル 30.0% ファモキサドン 22.5% エ 人畜毒性：普通物 オ 魚毒性：C類</p> <p>(2) 使用基準 ア 登録年月：平成13年12月 イ 適用病害：ダイズべと病 ウ 希釈倍数：2,500倍 エ 使用方法：散布 オ 使用時期：収穫7日前まで カ 使用回数：3回以内 キ 総使用回数：シモキサニルを含む農薬 3回以内 ファモキサドンを含む農薬 3回以内 ク 散布液量：100～300ℓ/10a</p>		
期待される効果	だいずのべと病の被害が軽減され、安定生産に寄与する。		
利用上の注意事項	<p>1 水産動物に対して強い影響を及ぼすので、河川、湖沼、海域、養魚池に飛散・流入する恐れのある場所では使用しない。</p> <p>2 耕種的防除（連作の回避、排水の改善、健全種子の使用、適正栽植密度の遵守など）に努める。</p> <p>3 本資料は平成16年3月1日現在の農薬登録に基づいて作成した。</p> <p>4 農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」（http://www.jpnp.n.e.jp/nouyaku/）を確認すること。</p>		
担当	青森県農林総合研究センター 病害虫防除室	対象地域	県下全域
発表文献等	平成15年度 青森県農林総合研究センター試験成績概要集		

【根拠となった主要な試験結果】

表1 ダイズベと病に対するホライズンドライフロアブルの防除効果 (平成15年 青森農林総研)

供試薬剤名	希釈倍数	7月5日調査		7月25日調査			薬害
		発病株率	発病度	発病株率	発病度	防除価	
ホライズントライフロアブル	2,500倍	%		%			
		2.5	0.5	55.9	12.8	68.2	—
無散布	—	2.6	0.5	100	40.3		

(注) 1 試験場所：青森農林総研(黒石)ほ場 品種：おおすず は種日：平成15年5月26日
 2 散布日：7月5日、7月12日、7月18日、各180ℓ/10a量散布 発生状況：中発生

表2 ダイズベと病に対するホライズンドライフロアブルの防除効果 (平成11年 北海道植防)

供試薬剤名	希釈倍数	8月5日調査		8月27日調査		防除価	薬害
		発病株率	病斑面積率	発病株率	病斑面積率		
ホライズントライフロアブル	2,500倍	%	%	%	%		
		20.0	3.0	100	8.7	57.8	—
ペンコゼブ水和剤	400倍	18.7	2.8	100	6.7	67.5	—
無散布	—	34.7	5.2	100	20.6		

(注) 1 試験条件
 (1) 試験場所：河東郡音更町(現地農家ほ場) 品種：音更大袖
 (2) は種日：平成11年5月26日
 (3) 散布日：7月26日、8月5日、8月12日、8月19日、各150ℓ/10a量散布
 (4) 発生状況：少発生(初発は7月24日)
 2 登録促進に向けた試験なので、殺菌剤の効果判定に薬剤散布回数を考慮していない。

表3 ダイズベと病に対するホライズンドライフロアブルの防除効果 (平成11年 道立北見農試)

供試薬剤名	希釈倍数	8月27日調査			薬害
		発病株率	発病度	防除価	
ホライズントライフロアブル	2,500倍	%			
		26.7	6.7	44.2	—
カーゼートPZ水和剤	1,000倍	22.7	5.7	52.5	—
無散布	—	48.0	12.0		

(注) 1 試験場所：常呂郡訓子府町(北見農試ほ場) 品種：トヨコマチ
 2 は種日：平成11年5月31日
 3 散布日：7月26日、8月7日、8月20日、各100ℓ/10a量散布
 4 発生状況：少発生(初発は8月7日)

(参考価格) ホライズンドライフロアブル 2,750円前後/200g、2,500倍散布で約990円/180ℓ/10a